

霊 聲

れ い せ い

2008年5月 (第172号)

北米ホーリネス教団
OMS Holiness Church of North America
www.omsholiness.org
reisei@omsholiness.org

御霊のことばをもって御霊のことを解くのです。(コリント第一 2:13)

再臨を待ち望む者の群れ

藤岡二郎

(ウォールナツツクリーク教会牧師)

「どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめて下さるうちに。また、あなたがたの霊と心とからだとを完全に守って、わたしたちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのない者にして下さるように。」

第一テサロニケ五章二三節

私たちの教団の草創期の歴史が杉村師によって掘り起こされ詳しく紹介されている。教団の歴史に触れて感じる事は創立者たちがみな偉大な信仰の人ばかりだということだ。自分というものが全くない。主のため、教会のためにと身をすり減らして伝道に出かけキリストを証したのである。残念なことは、今ではそのとき語られた



藤岡二郎、周子夫妻

説教が聞けないことである。彼らは何を語ったのであろうか。肉声を聞くことが出来たならばどんなに素晴らしいことかと思う。しかし私たちが今持っている信仰はどこから来たのだろうかと考えたとき、それは彼らが持っていた信仰ではないだろうかと思う。彼らが再臨信仰を持ってきよめと主の前に立つ備えをせよと叫んでいたからこそ、今も私たちは同じ信仰を受け継いでいるのだと思う。近年の修養会は「キリストの再臨に備えて」というテーマで持たれてきた。今年もまた同じ主題を掲げてサンタバーバラに集おうと備えている。

テサロニケの信徒への手紙のテ

「マはキリストの再臨である。イエスが天に帰られる様子を見上げていた弟子たちに天のみ使いが伝えたメッセージは「あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」であった。イエスもまた公生涯の中で何度も再臨について弟子たちに語られた。だから初代のクリスチャンたちはイエスがすぐにでも再びおいでになることを待ち望んでいたのである。パウロもまた復活昇天の主がすぐに再びこの地上においてになると期待した一人だった。クリスチャンとは再臨の主を待ち望む者たちの群れと言っても良いだろう。その主を待ち望む群れにパウロは主を迎える備えをするようにと書き送ったのがこの手紙であり、各章にそれぞれきよい生き方をするということと、キリストの再臨に備えるということが言われている。再臨の主を待ち望む者たちの備えについて聖書のみ言葉から学び備えたいと思う。

キリストの再臨に備えるということを通して考えると到底信じられ

ない。ついて行けないと言う者も出てくるかもしれない。しかし神が人としてこの地上においでになったご降誕の主、死から復活された主、弟子たちの目の前で天に昇っていかれた主を信じる信仰を持つならばだれでも再臨を待望する信仰が沸いてくるのではないだろうか。再臨の主を待ち望むためには日々の信仰生活が神の恵みによって支えられ、励まされつつ歩むことが大切だと思う。五章二三節には神が私たちにどのように恵みのみわざをなしてくださるかが言われている。

預言者イザヤはやがておいでになる救い主は平和の君と唱えられると民に語ったが、神は平和の神である。その平和の神ご自身が、私たちと平和の関係を持つてくださるとき、神を信じる私たちについても平安を与えてくださる方ではないか。イエスの弟子たちは船に乗ってガリラヤの海を渡っていたとき、突然大きな嵐に襲われて思わず「主よ、助けてください。おぼれそうです。」と叫んだ。そのときイエスはことばだけで嵐を静め弟子たちが無事岸にたどり着くこ

とが出来るようにされたのである。人の生涯にはいろんなことが起こってくるが、神は突然襲ってくるような人生の嵐の真っ只中にも共にいてくださり恵みによって平安へと導いてくださる。だれでもイエスを信じ正しい人間として生きようと願うが、いくら自分の力で努力しても、どんなに願っても心の中に罪を犯す性質を持つていることに気がつくだろう。そんな弱い私たちではあるが、このころには「全くきよめてくださる。」と言われていた。神を信じたときすべての罪が赦されたという確信を得る。この救いの経験に預かった私たちは、神の用意しておられるさらに大きな第二、第三の恵みを受けるのである。平和の神はその私たちに恵みによって全くきよめて霊と心とからだを完全に守ってくださるのである。

黙示録の中には天においてこのイエスを救い主と信じた多くの群衆が神を礼拝している様子が描かれている。天上の礼拝に集う人々にはみな白い衣が与えられたと書かれている。これは罪や汚れの無いクリスチャンの姿を表している

のだろう。三人の弟子を連れて高い山に登られたとき姿変わりやされたイエスの姿のように、私たちもまた恵みによって主に似る者とされるのである。信じることによって瞬時に救われたように、求める者にはたちまちきよめを与えられることを信じて受けたい。だから再臨の主の前にしみも咎もない者として立つことが出来るのだ。

「あなたがたをお招きになった方は、真実で、必ずそのとおりにしてくださいませ。」

これは真実な神の恵みのみわざである。信仰に生きるとは、神が私たちをきよめてくださり、それによって主イエスの前に立つことが出来るという確信を持つことではないか。聖霊もまた弱い私たちを助けてくださる。父と子と聖霊の恵みのみ業に支えられて再臨の主イエスをお迎えする備えをし、そこに本当のホーリネスの喜びと希望があることを覚えてこの新しい年もホーリネスの群れと共に信仰生活に励みたい。

私はこの北米ホーリネス教団の教職者に加えられるから今年で六年目を迎えているが、ここまで

守られて牧師を続けてこられたのはただ主の憐れみによるといふ他なにもない。だからこそこれからはもすでに天に帰っていかれた先生方が守り伝えてくださったこの聖書のメッセージを確実に信徒の方々に手渡し、新しく加わってこられた同労者の方々と共に再臨信仰に心を燃やし続けていきたい。主イエスよ来てください。

それがあれば

小さな花を

そっと人に差し出す手

やさしい言葉を

一つ二つ人に与える口

それがあれば

人は人を生かす

大きな仕事ができる

弱く無力な者でも

中尾照代著

詩集『時』より

主の恵みを求めて夏期修養会に参加しよう！

二〇〇八年夏期修養会準備委員会主事 島田直

私たち北米ホーリネス教団にとって年に一度、主の恵みを求めて集まる場所が、サンタバーバラ夏期修養会である。今年で六九回を迎える。多くの方々がこの修養会で恵みに預かり、主からの取り扱いを受け、きよめの経験をし、そして献身へと導かれた。私も一九七九年の修養会において、主から取り扱いを受け、献身へと導かれた一人である。修養会は私たち教団にとって霊の恵みに預かる大切な集会である。そこで同じ教団人として主にある交わりを持ち、霊の恵みを受け、信仰の一致を保ち、そしてそこからまた各教会へと遣わされていくのである。

主イエスは「すべて求める者は得、捜す者は見いだし、門をたたく者はあけてもらえるからである。」(マタイ七・八)、また「だれでもかわく者は、わたしのところに来て飲むがよい」(ヨハネ七・三七)と語られた。主は私たちを救い、祝福し、そして聖霊で満たし、きよめてくださる。私たちに必要なのは主を求める思いであり、主の恵みに満たされたいという霊の渇きである。主は修養会の一つ一つのプログラムを通して、私たちに時に適った必要な恵みを与えてくださる。

今年にはハワイのマキキ教会の黒田朔師と教団内の溝口俊治師、大倉信師が説教のご用をなさる。どうぞ主に大いに期待し、ただ主の恵みを求めて、祈り備えてご出席ください。

「み言葉に生かされる」

マキキ聖城キリスト教会

牧師 黒田 朔

二〇〇六年の夏、「来年ではありません。再来年、二〇〇八年ですが・・・」と言ってお招きを頂いたとき、まだ二年も先の話・・・と思っていた夏期修養会がもう目の前です。

すでに一〇年以上継続中という「キリストの再臨に備えて」という主題も今は「まだ、まだ・・・」と感じているかもしれないませんが、やがて「へえ、もう目の前！」と慌てることのないようにしたいものです。ところで、「キリストの再臨に備えは出来ていますか。」と尋ねられて「ドキッ」としませんが。もしドキッとなさるなら、あなたは何か誤解をしています。キリストの再臨は救いの完成に至る大切な一歩、祝福への前進です。倍率が三倍、五倍という入学試験のための恐怖の準備ではありません。永遠の命の祝福へと私たちを迎えるために、一人も滅びることを望まれない神さまが迎えに来てくださるのです。

これほどの楽しみはありません。

そこで、「再び来る」とのイエス様のお言葉と共に残された弟子たちがどんな風に「主の言葉に生かされ」て歩んだか、また、困難と戦いの中を歩む弟子たちを主がどのような導き、お育てくださったか、その実際をたどってみましょう。

今年の夏期修養会において、あなたが「あなた流のみ言葉に生かされるコツ」を見つけ、「キリストの再臨に備える」一歩としてくださればと願っています。



黒田朔、康子夫妻

北米のリバイバルに貢献した人々

オレンジ郡教会牧師 杉村 宰



前回の記事は、一八八九年に北米日系人の間に起こったリバイバルについてであった。その発起人はM・C・ハリス宣教師であり、中心人物は河辺貞吉であった。やがて河辺は日本福音派のリーダーとしてキリスト教会を支えてゆき、このリバイバルは北米ホーリネス教団を生み出してゆく。

さて、このサンフランシスコを中心として起こったリバイバルであるが、それはまったくの白紙状態で起こったのではない。「火の無い所には煙は立たない」と言われるように、何らかの起爆剤が必ずあるものである。それはやはりア

メリカのキリスト教会自体のリバイバルであった。一八七一年以降、大衆伝道者ドワイト・L・ムーディはゴスペル・シンガーのアイラ・D・サンキーと共に、「ムーディは福音を説き、サンキーは福音を歌う」という名コンビを組んで全米のみならず、イギリス・ヨーロッパ各地を回って歩くようになる。

……ちなみにイギリスではチャールズ・スポルジョン（十九世紀を代表する説教家）や、ジョージ・ミューラー（偉大な祈りの器であり、孤児院を創設した人物）に会って多くの感化を受けている……

ムーディたちはクルセード運動を展開、それはボストンからサンフランシスコ、サンディエゴに至る全アメリカの都市で多くの聴衆を集め、多くの回心者を出していた。その生前の伝道で、約五千人に福音を説き、百万の人々を救いに導いたと言われる。

特に中国伝道の覇者ハドソン・テラーに会ってからは、異文化伝道に興味を持ち、それは少なからず日系人伝道にも影響を与えたのではなからうか。

ムーディは聖霊に満たされてご用をすることに重きを置いたが、そのためには彼の背後で祈っている二人の老婦人の絶えざる祈りがあった。一方、サンキーの最も効果的な独唱の一つは、『九十九匹のひつじ』であった。

ムーディが創設した聖書学院は、かつて夜間学生を加えると四千五百人を数えたという。以前そこをシカゴ・レーキサイド教会の鈴木光夫師と訪れた時に、記念館に日本ホーリネス教団の監督となった中田重治の名前が記されているのを見た。彼はそこで一八九七年に聖霊経験をし、灯された聖霊の火を日本に点火したのであった。中田をアメリカで迎えたのもM・C・ハリスであり、さらにはムーディの励ましを受けて帰国している。後年、彼は、「日本のムーディ」とも呼ばれた。

第二次大戦中のこと、太平洋で日本と戦火を交える中、日本人に貸す教会はどこにもなかった。

悶々としていた葛原定市師たちに、先生の子息がヨーロッパ戦線で活躍をしているという上官の一筆によってムーディ教会の役員心を動かし、門戸を開いてくれたのだ。そこには当時の牧師であり、聖書学者のアイアンサイド博士の勇断があった。

その教会の建物たるや、一見に値する。巨大なドーム型の建物は外壁で支えられており、建物内には二階を支える柱さえも無く、それだけでも当時の建築技術の粋を集めて造られたものであることが素人目にも分かる。

彼は一八九九年に召されているが、R・A・トレイが後を受け継いでいる。彼はムーディ聖書学院の初代の校長であり、世界伝道クルセードによって四年間で、十万人の人々を主に導いたと言われている。トレイはアレグザンダーという歌手を同行させている。

またアメリカではムーディより半世紀前にはチャールズ・フィニーによる信仰復興があり、さらに十八世紀には二回の大覚醒運動が起こっている。

そのような信仰復興のうねりの結果によって、日系人のリバイバルが起こったのであった。



聖霊に導かれて

鈴木 栄一

(引退牧師)

「主の御霊のあるところには自由があります。私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに御霊なる主の働きによるのです。」

近年、クリスチャンの間で非常にポピュラーになったリック・ウオーレン『人生を導く五つの目的』はとても分かりやすく、明瞭、具体的にクリスチャン生活の真髄を教えてくださいます。なかでも第三の目的、「キリストのようになるために造られた」はクリスチャンの霊的生活のゴールを明らかにし、私たちがどんなに強調してもし過ぎることのないテーマです。なぜな



ら、ここにこそホーリネス信仰の目指す強調点を明確に見出すことが出来るからです。しかも、このような視点からの強調は、ホーリネスに対する多くの偏見や誤解、また脱線から私たちを健全に守ってくれるからです。

神は初めから、私たちを御子イエス・キリストに似た者とする計画をお持ちでした。キリストに似た者と変えられるホーリネスは、初めから神のご計画のうちにあるものです。そして、その実現のために働いてくださるのが、聖霊なる神にほかなりません。み霊に満たされた人生とはキリストのように変えられていく人生であり、キリストがそうであられたように、神の栄光のために生きる人生その

ものです。長いこと私は、どちらかと言うと、能力（ちから）としての聖霊のお働きにより多くの関心を持ち続けてきた様に思います。しかし今、ドゥーイング（行為）よりビーイング（存在）の重要性が叫ばれる中で、ホーリネスという実質が伴わないいかなる活動も無に等しいことを思わされているのです。

引退し現役を離れた今、あらためて自分のしてきたことを振り返り、どれほどこの「私たちをキリストに似た者とする」という神のご計画にそってミニストリーを進めてきたかを深く反省させられています。遠大なこの神のご計画の中にありながら、ただ目先のことに振り回されて右顧左眄（うごさべん）してきた自分を悔いずにはおれません。果たして、自分にゆだねられた信徒の一人ひとり、どこまでこのホーリネスの真髄に目覚めさせることが出来たのだろうかと自問するとき、何と浅薄なミニストリーであったかと慙愧（ざんぎ）に耐えない思いでいっぱい

になります。その最大の理由は私自身がこの目的と真剣に取り組んでいなかったことにあります。自分の内にはないものを、信徒に求めることは出来ません。今も聖霊は言い難き嘆きをもつて「キリストの形がなるまでは」と私のうちに働いていてくださいます。私の願いは今日もそのお導きに従い、主のお取り扱いにあずかることです。

顔のおおいが取り除けられ、主の栄光を反映させながら、主と同じ形に姿を変えられていくクリスチャンに、私はなりたい。でもそれは自分の努力や頑張りで出来ることではなく、ただ、み霊なる主のお働きによつてのみ可能となります。私の人生はこのために、変えられるために、あるのです。今からでも決して遅くありません。今日も、明日も、いのちが続く限り、この私が変わられていく、それはまた何と素晴らしい恵みでしょうか。「主のみ霊のあるところには自由がある」のです。今日もこの自由を、溢れるほどに満喫させていただくことを祈るものです。

教団ニュース

■ 二〇〇八年教団総会

七月十一日(金) ～ 十二日(土)

正教師会 七月十日(木)

会場：ウエストロサンゼルス教会

■ サンタバーバラ夏期修養会

七月二日(水) ～ 五日(土)

講師 黒田朔師

主題「キリストの再臨に備える

―み言葉に生かされて―

登録期間 四月六日～六月十五日

■ ハワイ聖会

六月二十一日(土)～二十一日(日)

講師 大倉信師

主題「キリストの再臨に備える

―み言葉に生かされて―

教会ニュース

■ 一月十三日 北加では杉村

宰師を講師に北加新年聖会が
持たれました。

■ 三月二十九日 北加宣教大

会が行われました。ポーリ
ン・ニシダ宣教師がニューヨ

ークでの働きについて報告し
てくださいました。

■ 四月五日 南加宣教大会が

ウエスト・ロサンゼルス教会
であり、諸教会がそれぞれに
宣教のビジョンをもって日本
東南アジア、アフリカと、文
字通り全世界に向けて働きを
進めている様子を伺い知るこ
とができました。

■ オレンジ郡地区では、四月十

九(土)に、JEMS主催の
賛美大会がウインタースバー
グ長老教会であり、諸教会か
らゴスペル・フラ、タップダ
ンス、独唱、合唱、子ども達
(一歳の子供もお母さんに抱
っこされて参加)の賛美があ
り、教会、教団を超えて、お
互いに励まし合うことができ
て、大変感謝なことでした。

■ 昨年からサンタクララバ

レ教会でシリーズで語られて
いた「十二ステップ」の説教
が二月で完結しました。この
説教集の必要な方は、中尾邦
三牧師までお知らせください。
■ 中尾邦三牧師のホームページ
に聖書の質問や祈りの課題

を投稿できるページが新設さ
れました。(ご利用ください。

www.penguinclub.net/nakai

■ サウスベイ・ジャパニーズ・ク
リスチャン・フェローシップは
四月一日から下記のとこで礼
拝を持つように住所を変更いた
しました。

23325 S. Vermont Ave.

Torrance, Ca. 90502

郵便物は

4489 Spencer St. #222

Torrance, Ca. 90503

■ ホノルル教会では、新会堂建
築プロジェクトがスタートし
ました。

■ ウォールナツクリーク教会
ではキッズクワイヤーによる
賛美CDを製作しました。この
CDが伝道のために用いられる

ようお祈りください。

■ サンロレンゾ教会

* 六月十五日(日) 午後二時半

中野雄一郎師による講演会

午後六時より日英合同賛美礼拝

* 七月六日(日) 午後二時より

岩渕まこと氏夫妻によるコン

サート

* 七月十三日(日) 午後六時よ

り本郷氏ご夫妻によるハワイ

アンコンサート

編集室から

▼今回も無事に『霊声』を皆様
のお手許に届けることが出来た。健
筆を振るってくださいました先生方
感謝！ 修養会の講師である黒田
師は、豊かな経験とユーモア溢れ
る牧会者だ。乞ご期待を。(真)

教団所属教会

(カリフォルニア)

フリーモント教会

サンロレンゾ教会

サンタクララバレー教会

ウォーナツクリーク教会

ロサンゼルス教会

サンファナド教会

サウスベイ教会

ウエストコビナ教会

ウエストロサンゼルス教会

オレンジ郡教会

ホイットピア教会

サンディエゴ教会

ノースカウンティ教会

(ハワイ)

ホノルル教会

ウエストオアフ教会

ミリラニ教会

(アリゾナ)

ツーソン教会

(詳しくは www.omsholiness.org
を参照)